

公益社団法人日本青年会議所 2024 年度 基本方針

香川ブロック協議会 会長 吉川 佳孝

ブロック協議会 の未来	親切心と思いやりの心を持ち 香川から笑顔あふれる持続可能な未来へ 香川県は生産人口年齢の低下や人口減少などの課題を抱えていますが、海外からも認められる地域資源が多数あるなど地域やひとを活かす方法は多く存在します。県下 6LOM が協力し、地域課題の解決や緊急時に対応できる関係と連携を強固にすることにより、活力が溢れ持続可能な地域となり、笑顔あふれる香川を創造します。
ブロック協議会の 役割	すべての事業を実施にて開催し、メンバー間の「交流」と「親睦」行うことにより、友と呼べる関係を構築することで JC 活動の魅力をもっと知ってもらい機会を醸成するとともに、現状の LOM の課題を毎月共有し、意見交換できる場をつくることで LOM の運営を円滑にします。また、本会や四国地区の事業や活動を LOM やパートナーに連携・推進することで、発信力と事業効果が最大になり、明るく豊かな地域の確立の一助となります。
ブロック連携事業 (政策手法)	1. 地方創生による地域経済活性化につながる仕組み構築に向けた運動の推進 地域経済を活性化するために、37 品目の国の伝統工芸品を香川ブロック協議会の一番の発信の機会でもある香川ブロック大会において、伝統文化を知り、理解する機会を醸成します。また、必要とする人の手に渡るような仕組みづくりを提言書として香川県に提出することで、地域活性化について改めて考え、経済が円滑に循環する香川の創造を行います。 2. 理念共感拡大グランドデザインの情報収集・活用・推進 多様な組織をつくることにより会員拡大や多様な価値観を重んじる組織を構築するために、日本青年会議所、四国地区協議会、香川ブロック協議会及び 6LOM の事業やメンバーの紹介を継続的に Canva などの WEB ツールを使用し、読み直しなどが可能な資料にて各 LOM に報告し四半期に一度全体アンケートをとり、理解されてない部分を強化する形で、JC が掲げる理念を共有が浸透した組織を目指します。 3. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用支援 LOM の理事・役員の創出やリーダーとしての活動を行うために、地域の課題を見つけ、地域社会を巻き込んだ事業を構築する考え方を学ぶことで、社会参加の概念や地域のコミュニティやニーズの分析で事業構築のヒントを理解し、多角的な視点をもつことにより、今後 LOM の理事の創出やリーダーとしての活動を行うための経験を得て、JC 活動を理解し、能動的に取り組むための機会を構築します。 4. 他者を思いやる JC カップ U-11 少年少女サッカーブロック予選大会の企画・実施 競技を通じてチームで協力し、他者を称えることにより将来の良き社会人となるために、JC カップ四国地区大会参加 チームの選考会を兼ねた大会を開催することで、みんなで支えあう気持ちを養い、他者を思いやる心とあくなき挑戦心を育み、他者を慮る人財を育成します。
ブロック協議会 独自の事業	1. 会員拡大を行うための新しい支援(香川県全体異業種交流会)の実地 毎年入会数より卒業生の人数多く、会員数が減少しています。会員の減少を防ぐために、香川県全体で異業種交流会を行い 6LOM で情報共有をすることで、効果的な会員拡大を行う機会を醸成するとともに、参加された JC メンバーがパートナーや異業種の方との交流の経験やつながりを事業に活かし、会員拡大の重要性を理解する機会を構築します。 2. 自己肯定感を高めるための子供たちへ人生モデル体験の実施 香川県は自己肯定感が全国最下位で、将来に希望をもてない子供が増えています。香川県の自己肯定感を向上させるために、人生モデルを考え成功体験を得る機会を提供することで、地域の未来を担う人財の育成につなげて明るく豊かな香川を創造します。

	3.香川ブロック大会東かがわ大会の実施 香川県では生産人口の年齢割合が急速に低下しており、高齢化が進行しています。これにより労働力の減少や社会保障負担の増大などの課題が浮上しています。伝統文化や地域資源の魅力を再認識するために、香川ブロック協議会最大の発信の場であるブロック大会において地元を活かしたビジネスモデルをJCメンバーで考える機会を設け地域経済を強化することで、地域性を活かした持続可能な香川を創造します。
ブロックによる LOM 支援の 実施内容	・災害時に四国地区協議会の災害共有アプリ「みんなす」を活用し、情報の統一及びサポートを行う。 ・月に一度、各 LOM の理事長から現状を共有してもらい、意見交換を行う。 ・各事業の終了後に交流の機会を設け、懇親を深めることで強固な絆作りを行う。